KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

13
3123
12

特
へ13
3123
12

十返舎一九戯著

栗毛六編

全部二冊

人馬駄賃帳

栗毛六編序

[illegible]

序一

栗毛六編序

長尾八〇四位のなが足。支所八
仏ゝ仔ゝ長く。皇の下ハ褌のさゞ里ゝ
仔ゝく長ゝ。酒のあゝ付しくゝハ。小堅を
飛鳥ゝやゝゝくゝも長く。借金を
引きざるゝハ佛病やゝゝる牛の小便

らかも出し。ちゝ何て紙屋毛の
尾は尾をとゞめて。毛道中の今年
帰りに。漸く五編目よ至て伊勢路
よ分もをれくと雖。例の長屋ちびり
をきまりして。京へ少し屋の紙屋を考へ。
下手の出所をハ編とし。はな見物が

毛生世間の掃除濃しの紙屑を
集めたまも。国々所の長尺無手
性。毛屋ハおもゝ毛ハ。いろ
毛屋の住所毛。粗とハ。偉ハ士の
弥次〻毛。世代て四国ハ巡ぐも。
京大坂ハあらまへ。そゞけの不古幸

抱(たゞき)。法一段々の印(ハイ)ばかり

やまとゝ志可伊布

維時文化丁卯春正月

十返舍一九識

黒毛しの
黒毛
羽織尾
羽織れ新
鶯梅の花

貞弐

附言并凡例

○或人予に謂て曰。此猛栗毛。追〻見て下の穿折。
又曰。五編目伊勢参宮をおて。大うく乗こなす
はめて。更花八束を源国に激辯よのむがよく
牧こなの通。あハ十分ちく〻ざるとおて仕訳しの得
ざる。若侠八見て下が見て見ぬ〻やこの〻云まとぶ今
斗も三編をこらへてこゝどやぶよ〻ふをんバよん
ふちあ。はて下ぶ猶のまちるも。よ大強まをまてある。
此人物の見て見ぬ〻やこの〻。きての若も掃さがよん。
あてこも掃ざこけ〻ぶや〻。ふちの乱のつゝあ示と教
て下さる間見八ちく〻ちとまて〻反古洗張
扇ふこけ〻あさ。若侠の中う〻詩句をさあく。
三ふよ五編目兵衛よいるぶ〻。浜沢北八が髪を
代をせ〻而色。事新をこゝしよう日数を孫へて。

最よあそん。予答曰。浜沢北八若年のこ〻。今日
掃て之を捨る。猶年掃猶ふ〻れバ初の養
の志あれる也。常乱の花のむ〻ちるも。化ぶ之を思
のさらや〻ふ〻て。菖蒲形よ生むも尽ぬ。こゝハ
此人物の見て見ぬ〻。きての若も掃さがよん。
あてこも掃ざこけ〻ぶや〻。ふちの乱のつゝあ示と教
て下さる間見八ちく〻ちとまて〻反古洗張
扇ふこけ〻あさ。若侠の中う〻詩句をさあく。
三ふよ五編目兵衛よいるぶ〻。浜沢北八が髪を
代をせ〻而色。事新をこゝしよう日数を孫へて。

そこのちなみにいろふぐやし。或人の枕元にこもりひ
こまりしと。ヨットまうせしさぐさを追ふ物見所
浜の浦の向こせしつゆ世の初の通。ちなみでも人の
性をあてはまる。そこが金こがや。報仇の新
身がひろう宮の孤化あり。りこふが。三文が知恵も
ちなみ。俗者のそこのことかくのごし
○佐又ばまる伊世浦のうち。山和廻り出羽米のこころ。
一つ二つ松は伏見の京大坂やしこしる八和物
公示巡行の潜船。
はけあまりくぐりしりぬ。はふ縫ととせこう人

ぐりこまる
○大和路のうち紙へ物ある所ちなみども。早おな
こまれそ出羽浦見と前にし。大坂と後京
○京名所ちこくなる。弗さる出らしじと又
絵屋を清ち知見。大弗さる出らしじと又
金宮まる詠見あこべ。よりは佐があるぞこいつと
ぐこひのるを出る出。敵よ出沢十編八京報見
物おこう。平安通ちこう海よ出八情山俗よ京
清し。佐田寺口のあるこうこおこる

以明治ゑてちよとはらくや上人

甲列歌澤雙言

十返舍一九作 全二冊

一名既死山清水紀伊国編の内
文代物語の中某清水寺の
口の上流に平宗盛の怪樹出
ゑしくあらはし程程内赤熊
寺命ぶ事所と書るを

夷曲馬士の弘童表

同著 全一冊

十返舍ぶ物語の記り物語の
怪編おりろ所を書らうを
出るくらく絵入るあるし程異
の絵流清盛出とあるを

たちまちも中板書ゑしゑ中久仕形ゑ所ゑ
ゑ

道中膝栗毛六編 上編

東都 十返舍一九著

清水寺の瓶八坂の塔八坂の園天桜干よ
そ。ものがたり生来同志の人の同を集め。独ま
誉の笑ふ下八ゑ。
むかしもこの伊勢海の日ぐれ。あ者の末まうふ
孫ぶ紙八心寺の俗名二ヶ月ゑんの茶ゑ同志
長ゑ付合の名ゑ。

いとげなる
一反ハやまを
弐反ハくに
三反を
きて
すぐの
川ゝ孫
千穐菴

おくまでふかひ。撫子乃連てよせぶれば。海かの梶よ
あつぎ。茶摘娘て出ぶれば。笠ふせいもなく。
名ふ〜白〜。東西男もさつま芋よ。掘ると掘。茶ぶれ
きやうぢよろ〜。
茶女ふ。ぜんご。出よのく〜ふ法ふとうれ。ちくぬ火の
つくきさらけよ名ふ。てきるあれば。弁慶のこち
ゆきんぐ。
くきふ。掘ふ。のの。ろ法くあり。茶摘の掘ふこし
。こん。ひく。
掘ふけて。金毘羅。茶摘の掘とひくきこ。街乃五中
まんなか。まぎれ。
あひよぐ。出して。法社。所法。ふる。最中の

あつき夏。まてふ命の法。ぐ。屋の川ぢ。殺川。ぢ。鱒よ
いつく。
何国。まぐも。ぢふ。ふ。ふ。ふる。雲。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
あつま。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
あつふ。東の都。神田の八丁堀。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ひ。ぐ。二人連のちあ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

ちんとう　天
毎所のあるくやうをくはさりくこんぜ
せんくん天坂の八軒家舟じゃ。のそうせんくんこれが
くの淀川の乗合ぶねぞ。ナントきこへ八。ふうとさえあるを
つりでまるぶいつそのて。ばあるのはこ。大坂くうさんく
やうくそのうはくはもよくろう。モレ乗合もあるやとうはくふ
たちいの。ふるうきやうのくんせいうきを出さそうい。コレく
ロうじこいてのうんせ。ふるたげられじゃるはちを伯とぬう
きやアぐる。きのつふべくぐこレは八。ふぬのはくふも

いつまよよ。おれが孔呂ぬまつんでかこよ一せんどうさん。
コりやアでり人きるのごはるる城さるの孫きえ別ぬんせ
張はんちせい。ヤアふいるトうるぐこもの合るへうこまるはコりやふるうう
法めくきろう。毎所さんくうんひくかさんせはうんせ。
サアくこるふいいる。トふねてぐんせ仕ちくきさいあきん
ぜよ
はは久いちきれ。涙いよござうまきるはこづうきさう
ちちくはりんぎけよござうまきるいる。あんぎいよく
く　下はうちせんどうぐも。毎はるとふいてきるひざうさ　生くくくはへ孫へ追れる帆うけて

たゝる。見れへこぶれてゑせる。ソウレ〳〵ちんぞい
コリヤ西 そらう 変が見るまつ。後ふろうちろうんとい〳〵せんどうさん
ゆめぞへちうまう　後ぎやあろ鞋をが見るいさいコリヤ
夜じやおろぞいの〳〵。味能 ぞよどるさも。ぞよらいてゐる
さうん。今のうちあんぞおようせんと。後より合がうるまう
さうい。京のへコレおまいちく追てうさんせ。稼のうへよい〳〵
うつてじや見る大坂のへコリヤ 仮法ぞく 新合おうぞひよ
仮じやろ〳〵石宵してうれなされ〳〵京よいといる。おまい大坂い

大坂
ぞこぞおいる〳〵京ぞんがりのしまい。
ゲンこ
こうる嵐こうぞおや。セントこでゆるくひうぞりなさうん
彼方
ふいる。きさの人〳〵コリヤよう〳〵船中の稼ぞう同ぞねーふあんこ
ぞい
まい。ひうつて嵐こ能やうまうこうよりうんうんどもい
南瓜 筆
ちさんのりんぞが。能毛川後のがうぞまうでくこ
さーぞつまうでもやうよぞいよう。越後のへコリヤ兄をいこれ。
越後
ヨーこもいいちぞのりんぞが。ちぞのあんあやさがゆうまう
くうこ。ヨーこも玉孔のおけさ松坂でもくうろぞんここく。

ハ
とつくにおりうへてアきなのおあらうたてあるせへ。なききの人
よう〳〵。これとそうしだいトおやゆうよまくうちさきき〳〵おまへよりたて
うしきそよりきて。よんおよりまあうまあんまたてちぎうんを。
コリヤ　ぞんくぶ　ぶ　ちう　かけ　ぶ　ぶ　ぶ

きやせう。きりしたで役者。おめでたやア。ろくろ絵へくろ
絵へ。大坂ハテ。きいたらいのひとつやりなさる。江戸ア
絵へ。色色。きいろ。きたでも一ぜんとらう男さ。誰でもうしろと
くろふんどがあると。きつねやうめてアせるゲるア。京しろくろふと
ぶんぶ。生ーのてらいる。ひーやろらいは三味線。きもさせん。チツンシヤと
これは出るぶの。場所やふきや。所よりもとうれ。やくしや
こいのろいぶの。きのいな。ふれぶのいな。松平の。芝居。でせう。
チーン。チン。合。イヨ。松ーりーヨ。江戸。まんまんまとうぶひとつ。江一。

ひきくあアきア。出世。のまがつ。五。ぶんぶ。左形。染物。くぶけ。ないい
京。コリヤ。やくふんぶや。ひーやきぶ。ふるよ。ふ六。ぬて。けるたつ。
ふいるふる。ふるや。共。板。ふいるとうせれ。おやないもせんすの
大坂。ひーひとつやろふいの。一。ひきへ。絵ふふ。でけませぬ。きて。又
京。さーヤ。つぶの。役者。ふいる。大坂。ちぢり。今のじやト。けた。大坂。
ふぶ。ふもぬて。ふいろもまんざふでな。ふまんまとうぶひふ。江一
ふふぶふもざくかんもそのきてふふ。
ふふん。これきへあききア。出世。のまがつ。五。左形。染物。ぶ。
けるん。トハ。合。イヨ。ふ。ふいや。京。コリヤ。きよふい。

大坂

おさゝのかくさのがわんまじゃ。おまいのきる羽織やとんさ
えんこらいさ。一きえんさぐぶ。コリヤア 佐弘 杉本 のりの。
菩提寺ぶ 寺子の 組中 ふぐこらぐ。一えんきこうちゃ
あろぐいなハ。一ト船中 浅草 のこえんどのさおりこうぐ。第六
隅田川 きよ 八幡 ごうを こうちゃ。山 のうすくる。
小伝馬 さあ ぶよろこかのと。他 のこそう。船 でのぐ。あぶ
ちゃくて きあろぐ。こまろこうちゃぶ。コレ 毎日 えん。ちょいこう
毎をつけてかりこうのえの あぐ のうめ 一せうぐ えんく

八

せんどう「エてふごぢう〳〵ちよく〳〵こちやめて。ひよぐらんせく
ぢて「それがでは正ちやァいひぐんい祝へ。ゝりみく。出ちふま
すあるてすまくとトうろく〳〵まろ。ぼぼぼぼわハものの写と。ごうのあ
のさういの正よわうろがごうのあるこへあうう言う
ふゝてゝ十二のまへぐこつれうろ。おんきよらゝきぢのさるよひよう。泳
ゝぐれハ〳〵ぢるゝおどゝてわさうるるぐせんちくよう。ふゝんふまて
祝ところび　ゝんきよ　「モシレく。おまちのかゝ用まおらるゝ。ぐゝ
かるぐゝ
つけるぐゝ。ぼゝぐ。ちびんゝてあぎまろへる。コルく。ぢ
わちよく〳〵。イァとゝうゝ。祝ゝまうとゝふぐゝや。モシまとうま
あろぢいのぐんちんろゝちやへりてうんせ「それへあり

ぐゝふおぐさうやをトゝうぐゝまぎれおさるりとさぐり
まのせぐたとれぢたちのゝ〳〵ろよ
屋のぐゝくのぐびんあゝよぢぐこゆそれとれをきびちよゝふゝうぐこゆ
ちあさうぼんゝうゝ。泳ぢゝうこれをちびんゝちゝろへゝうゝらぐゝて。
「ハァちふぢさうゆゝ。ことのうへちぎんぐゆうるちびんぐゝうへ
トゝりうゝ。ゆの正をゝちとゝちゝろへまへるあてぐぐも。あるなりれぐ。さそれ
ゝうゝとゝりてあるせんぐおくのあうへひうゝうゝぐかのであるふとゆびと
いれて。つくきまへゝとゝうゝ。ちぢゝうゝは。ゝうせうぐんぐりるよあるゝ。ゝんへせく。
ちゝのおちゝとゝうゝうゝいゝりァゝちあゝもゝうぐあるゝゝうへのわゝゝゝゝシウく
ゝ。せゝうぐんを「ハイ。あゝりぐゝふどぐぐんゆゝ。ゝトゝうゝりへゝうゝちゝあて
してちるひ　あく。ゝんきよやぐ
ておゝき「コリァゝちゝゝうゝさむかゝつゝ。ちれ。おきてゆ。イゝとも
さんゝ。泳ちゝ〳〵ゝうゝゝんゝ。コル同イゝうゝさんゝゝく。コリヤ

ゆくらふぐや　トそそ〳〵さぐりまわしてひだちの出とつけまはるゆ
　　小だいちんとそそ〳〵ひらるだるよぶつさげさぐり
きよとと〳〵やアコリヤ伽じゃ。ア茶とそつもりで。ゆうる
入れておきあつさとふぐや　トいひつ。ふの乃らつきびきよと出。
　　浦そらぶきんごせうぐと川の中
へうちゆけてきるひ。きぐるよ指のさけを　ひきよ
あけてゆるぐちのうくよりけ分ぐ〳〵　モシ茶ぐのおあ。さけ
ひとくちごのぎあいな　コレハおさーるこでこぞれ屋さ称。
いきよ〳〵りよでけさとふぐや　トさいろうのゆ〳〵あるど出〳〵　いきよ
　　いきよぶさうづきまおかついで　〳〵トレ
おうんスまきまるよ。イヤとれへ。けらいる香がきろ。ぺっく〳〵
コリヤ伽ぐつるるつるのうよ。ものやとぐやあへまんひとう

おきいのんでんでんでぐんせ　トきさハへさろ　ハイー　とれへヲトミ
　　づきぐさとと
トリうけてぐとのんできるひ〳〵ぶ伽〳〵ゆ〳〵きるきよよゆて。ぐんるゆ
　　のきるさけぐとぐちろふおりひるぐ〳〵むとろるしてなでさきろ〳〵
〳〵イいるぐきゆ〳〵　きよ　おつれのおろうへあげてぐぐんせ　ハ　そんるう
伽ぐさん。ソレトさうぐきさを出ゆきさ。伽ぐさんせんちくようこれをとんそ
　　ゆうぐきよおりひおんでもあれゆあれゆぐせうぐんを〳〵さ
きびんぐぐ。それでさけのりんをとるとらいんぐぐふ〳〵ものぐ。ぐじいおれゆ
そうで。きびんく〳〵おりつて。せうぐんきるゆ。ぐんぐ〳〵とそ
とんのうちふおうぐるときるゆるとそ。ゆきるぐ。ぐきるゆ
あのうちのさけをゆハゆのうるとゆきるぐゆるとゆきるぐ〳〵きるぐ〳〵ゆ
わハぐうぐきを伽　〳〵イヤ　あ〳〵アゆめんぐ。ちゆぜうとよりハ伽ゆのこ
　　れれだ
〳〵ゆ。おるさぐ。ハイーそれへあげませう〳〵　きよ　あゆ〳〵ん

のうらの川(かわ)にあびるてんぐ。極(ごく)さん。ちゃぜのき極(ごく)さけく
いつて。だんな頃(ごろ)をづいてまるおめ。コリヤア伊(い)でも。なん
ちやどえ(いきき)ア。きえてあるどの。今そろちやのおう
ぐてうぐりで。ちびんてまちうぐで。このうへ小判(こばん)ちこうや
さんせんういのぞもせうようてんとおりあるぐ。コリヤお
まいてそぐやさちへのまんのどやあるぐいり(わい)ヤ。ちぬや
せん素(そう)花(か)のコトでも。ぱくん。ぐ(ぐん)ぬ中でよ伊。てて。ちさ
きをゆ中。そのてうんの。素(そう)あへ。ちまんん。さて。まて

極(ごく)。ゲエイく。ぐうう(いきき)てそ。きびきまよ伊ら一ッ。ぱんあると
おりあぐ。コトや又。ぱコトろめ。童。ちあぐ。ち入れておきちつてそろよ
て。門へろてぐ。ぞんでもせうようのちぐりがのこんて
あつてちのぐやあるぐい(わい)ぐどろて。むのがむちくまち。
きよ(いん)門。ちるや。ゲエイく。ちぬよ。ぜ中てんてもア。
むさやのゲエイく。陰。これいちきのどくまモシ伊ぞ。ちあでも
あぐうや。高じゆ夜のあるてさみ。伊がよろへまちん。
モシく。ぞちてぐ。ぬ。ぬ。ぬ

ハイ　ごもせうべんのあらうこと。よいこまくいかちません。
ソリヤアとまろうとすのぐ　はたさん位をちろくまろうて
うんなこどもあまろうせうべんとさまるのろうすくのぐるドレ
みるべうへぐ〳〵新と出してやつつし。おれがつうまくてゐて
やろうソレよりう。シイ川〳〵。ごみさまぐろ。ア川のゆぐろう
大ぐら猛でうい　ナぜ大ぐらるくごふさるへて。少位を
きくのよ向コイ〳〵〳〵とよんでやるい　ア　だらア　つくを。
ゲエイ〳〵　ト　ちうち　いんまよいゆうく　川のあるようがけく　くちをあらひて　ごふごやそろう

ちやのあろこ。きいこいのへどあつこそゆうよくゆうゆうと
ちをとてごすぐめるうい。ほたくんのちるおくーさをへイヤりみか
ひているいんきよけろうどんこそてくべるさくろうれ
ごひよごそろうれめるあつこそろちやくちるこそよ。あこの
ほやうんがかんきるかのがあるあつこごふせうぐいの。
まろへそーこうころちやよあろ。ろんまのきびんできけめ
くんいこーまきよういキンニてよごやろんまのきびんのろう
がきれいぐや。夜のきびでくんぐろくまこまで。まぐ
きこ夜ゆせうようせんさい。それでくんせうこい　ゆ　ろ

そうあるゝ。あやまりやさを孫一たゞァいつゝ。茶碗のちやが
うまゝ。酒のくいまびんのそばゝ十二まびんの酒ぶのめり
りのうそんちゝ。モシ佐ゐゝんきよさゐ。ちゝ。今のきび
ちよゝやゝよゐさんませ一きびちよハ川べをつゝさらいの。
まびんのゐうぶあゝいさらいきれいぶやらいのト桜のさけ
ゆあけて火ばちの一ぢ私。そゝゐ茶碗ちゝ。サァくゐんまの
うゝゐうけて
さけぶや。ソレかまいぶゝさゝへトちゝんときゝいぶゝと一いゝぶ
きやせう一むゝの名いちゝんぶや。者あぶゝよいぶ。ちゝ。ぶ。ちゝ。ぶ。ちゝ。

くらきぬいさ（トコロデアレガ名ト）ぐらとりて「ア」名いこと〳〵。サア（兄）なぐさなの
あんみやさやつ（ちやうんと口無）（きさの人）（ケ）「ナイコリヤ」。えものぞん
くらるてたぞよ（いきき）「ぐんぐ」そうちやのおうこへあげてぐんせ
（ケ）さた〳〵「おうう」。あんこへさんじまさこへ（トそのつぎの人はこそ。さい病人〳〵ぐんさいろめ
あをぎやるあらざらけの男。名うよりさとまはそふんよよりくく。おうた
ぼへすへだうくうきうみてらいのうのおやぢとおうづれおそらうるが。
（つけ方）「ア」「コ」ーやさけいいくんさういとるんゆくいつぐんせト
（ケ）のおやぢゆらづるせんこくよう。おびんのきれのおやぢ「モシ〳〵」。たぐうるが〳〵
（てぶや）るこもきこいるこるれがいろうくうなぢ「モシ〳〵」。たぐうるが〳〵
（ケ）このおびん。こうちやへくぐんせ。（てぶや）ぐんせ。ほ扨ゆりまおよう。（トけおやぢ汚）

（ぢ）ぐたとうへつぐけてこうたのやうくしぐんぐちやうんと（ケ）「サア」ぬんきよさな
かくへおくうくせば（ほ）ぐくくうつぎて（ケ）「ア」（いきき）おまい。まひうのんでおこきんせ「ハイ〳〵」
あげませう「イヤ」（ほ）
さあうちあう〳〵。モシこのおびんとちうへ（びやうゆんの西のおやぢ）「ハイ〳〵」それへ
ト（ほ）おびんをおううがぐをゆハ〳〵へおうくへ（ほ）おうくくのんでちやうんそうぐ「ア〳〵」こうやや
つぐでうう（ほ）ぐくくのんでちやうんそうぐ「ア〳〵」こうやや
（ほ）ぐんぐこり。ぐエイ〳〵「ほ」（われ）ぐきんぐ。ぐ「ほ」ぐんぐ。ぐ「ほ」ぐんぐ。ぐ「ほ」ぐ

大でゑ〳〵（法）可ふぶふ〜ふうよろぶ。はふうくもあ〜ぶれ
ゲせうぐんとのむへまぐ〜もア。病人（びやうにん）めぶ。ア。ろうらさん。
ゲエイ〜〜ぺッ〜〜〜（ハ）可〜〜〜あの病人の新（ふる）とんな。廣（ひろ）く
ふんそ。あ〜ふ〜ふう。肩（かた）の病（やまひ）のあうまで。だく〜〜（法）可〜〜
りふうろてふめる。悔（くや）ぶさるよふぐ〜ふ〜ふ。ゲエイ〜〜
（ハ）可〜〜〜とう〜〜おめ人（にん）ハ仮（かり）ぶ。ふる。新（あら）でんりふ。禁（きん）仮（かり）ふまるぐ
い。ふふで。いろ〜ふ。ふうんぶ。ぐ。ぐ〜〜
せう〜ぐんと人（にん）ふのまぜ〜ふのむ〜ひ

おのまものんでよい きびきるちうり
は（そうど）滑動ふ新中おの〜〜弱（よわ）うきふ〜。大（おう）ぜいふ
うちち。ふ（あき）ハまや。ひ〜〜ふふふ。ふ（ふ）ちう〜〜ふ〜〜ふる。と
ア人（にん）商（あき）ひ新。ふふふ。ぐふふ。ぐ（ぐ）ふ（ふ）ぐ（ぐ）ふ（ふ）ぐ（ぐ）ふ（ふ）

ふるゝソレくへ。そろちやのこゝろぶとい。ひすぢをあ
ゝ。そけつるが。ぜるちいゝ。イヤとのだらだらめう。ゆと
ふざきやアがる。のゝ合とのけつかむ味ないろ。ゆるゝふて
いくんらい。あきんくぬるゝアあまいてゝるひれ。のゝ合ぬるをぞい。
ゝそ。いもどうけ。ぜるも。外家も。ゝるひてけつる。あきんくそのまぢや。
ゝるい西へゝる。うちで。ぜるゝて。まりあゝるいをゝるの人。イヤ
ゝあつ。ふゝゝるまつゝよヲ。いゝるちゝつるだつて。ドウシタモノジヤそのぬゝ
よりあぢん。ゝるちどの人。ぼゝゝるまつゝ。天害邦。あきんくぢつて。ちゝよと

ざいぬゝをぢゝ。ぜるゝう。ぜるおとせあい。コレをこゝふ。ふやぢ。ぜる
ぢふぢあい。おやぢ折盆。このぐんどうめゝ。ゝるゝ。今ゝるつて。ゝりや
ゝるゝい。ゝるあいさぢや。ゝおぢれぢ。少人さいゝ。ゝ。ゝ。

板ゝてさんを。アリヤこの赤ちゃの舟へあるいう
ものとぞんざいらよのぶめいぶつ者ゝいの「それぞ
ろてあんまゝる「ワアイあきんあうよゝトとぎぶ「コリヤ
まちあげれ。あわゝゝアぶれがろゝトひゝゝアきんであもいぶ
のゝ合のひざをあんでゝろ「アイタゝゝコリヤこゝぶまゝゝぶあんぶ
さゝこけるゝろちゝこの人「うんどもがゝろんぶう。よん中のうゝゝゝアイタゝゝゝ
「コリヤ。はめんちゃ世ゝトゝゝゝゝゝかゝて舟へひゝゝゝまぶゝゝ
ゝゝ。あわゝ。ゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ

ひきあけ。ぜんぜん出て。ぜんぜんいきあたるとなりのうるさいハア
うふぬ時。ごうふる。ごうふるよりハ又こまりてとぶあるきい雪
ゆへゆきてくまらこ。ハヤ。きて稲ほてきてくらいこ。ごうも
船でいでぬ。イヤさんとい。ちふてつてあるうち。ちろうろ
ちまへあがりて。やらしてこよ。ハヤ。ものでも。人が
まあるよあるよわきぞ。ちやくてふ出せ。イヤうちも
おあ体が。ちくあうこ。モシ。ぜんぜん。ぜんぜんさん。ちろくあがりて
まくへがりう移へ。ぜんぜんよりちやらいてごんせ。ほらが

今はゝくて出かゝるとゝ。直
ぞこぶ〳〵ナニサ。そぶ。でおぐらぶ。
トあくふよう。
つくこふおぐて〳〵セントいく。
そこ。あ。ぶ。ぐ。ぶ。ぐ。ぶ。ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝらをてゝ[illegible]ば。えんやてんやゝ[illegible]。りとう[illegible]
大坂へのぼるとてだうりんぐ。ゑのきをて[illegible]。[illegible]
長所のゝ[illegible]湖海やゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
和の初徹の茶やでよこ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝまゝ。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
まゝ。彰所ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]人のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

彼所行買

ゝゝぎゝゝあゝいゝゝゝ

かぐやぶんやを採へてくるかの十里ぐやくらいのへまてるア
大坂へおちのおひろいおぶノウ わハへ十二サいつぐるんよ
きんてねちまへうちをひやくをのごハる。ゑくう十里
あつてさあるものうさわくもゑへ一ヤおまいてとてを
まやくおりてごやくらい依ぶんの糸ぢー きやぐるへ十二
依ぶんぐゴリやわハぶいてあきをきうゑちやア。人とをぐちい
きるおらくアゆめぐを依ぶくうくゑ私おへてまるのぐるゑ
へねいくんをゆう。極山のけつう孤よるるつまくれくりんぐるや

退

あるぐい。うゑこちぐいてねゆんせへのいるるちゆきまぐい。
てくまいくを孤つきさア ちんんのくろ。ゑぐくろるぐぐは
ぐも孤へトいきゑゑぐゑ氏ちゑ孤ゑ一ちんんぶいく。ねせう
あへてぐやきんゑとよう。ちちやぐゑくんめよあくゑくゑの。
とくをくぐつくゑを形でくしるゑくゑいんまのさゑまで。
ゑをせいらくくしておつくぐ。孤くうちきれんくゑいの
孤ゑくのくゑは へイヤ孤ゆきん。あとゑあるくゑのをぐやさ
あるつくゑをちけ
くいゑくぐくへまくてくさ孤へあぐくゑ氣を高ゑてアんんせく

いふことやらいふ（ぼん）ことばどやうにちがひくて
（漢）コリヤ　ゆひろぐ。ひつてえへおいらがのぶ（ぼん）ナニぬらくてくる。
おごれらくやだるてたらえたるをコリヤアんな。ものしきの
たらふこちの名がかいてあるらいといふまてしかるべつたし
つこうぶかし（漢）きもさうぶして（漢）ちン（漢）コリヤまちがつ。ソレがまをぞおいらがのへ
ごこふあるへあんぶ（ぼん）つくせナニおごれらがつくることをられが
きろぶい（漢）こりへはまらく（漢）ぬ。ハぶふくるへ（わ八）おめへあれが
のもこれて。ぶるつんでぶふおいらぶやア（漢）ぬ。ぶせて

おいらぶきるあぶ（漢）ハテめいよくとれ。ふ
（遠）ちぶへ（漢）ぬ（こう）ぬ（こう）ゆぬらくくるゆらアノ（こう）ぶんあせ
けいるつくぶやる（小八）イヤこいつふそへあらぶ（ぼん）ふらも
かそいもいるこちやあるらい。ぶらちでおごれらアゆんぶこう
ぶや。つこうふ別来ちふれさらいゆらくてこまをこへくて（芳盛）
出ていふきれ（漢）コリヤアこへぶめふあふぶさろたりこう
ぬ。きこハぶふくこのぶろへ（小八）されぶらちもこうぬぜん
てへゆふぶへゆ日ぶろけ（漢）ゆこうくゆふぶあのぶんよ

月ぐ出さうつ。大うさ廿日あうぐ（ゆハ）今月ハ大うゆう。
きのふ。なんの日ぐ孫（張）へ（さ）れぐこうく。はるソレごこでら
こまろこ時甲ぐ（きのえね）ぐ（ら）ろこ（さ）じゃア孫（ゆハ）へら（ソ）レく。あの茶（ちや）
ハ（張）へうまあつこ（ひ）ろの牛房（ごぼう）のたきさ。おいつれめづらしい
ぐ（ワハ）ハ（コリヤ）ぐ。ぐふでもてきうふ（ん）ちんまじゃないらい。ワハ（ハ）
ト（とう）ちぐ（ぎ）をうて大（だい）ふ（ん）さる。ことの中でも（ハ）ソ（ア）きこ（え）さ（ま）ぐ
ぐ（ぐ）ぐいの（ぎ）こ（え）ぐ（ぎ）ぐ（ぐ）くうん（ぐ）ぐて（ハ）ソ（ア）きこ（え）さ（ま）ぐ
あうこいの。なるぐ。あ（ま）うか（ハ）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ

やうせう。ろくちくも船よの川と時へ。ぐらぐりでへあるし。
そうちぐくとくちくさぐぐのやう。番どころもちぐみくようで
ぎぐんやーくが茶合のそぐぐうーまのくとくれをうふくと
びれまぎれよッイ福てきるひやて。けきくくへまくてん
ようや。茶合の品のうちよ。人きりくわがひとくも極へ
へやーぐぎるくぐくら川ていやくこのさ張くくをかへびちる
わぐ。今のさ元船のあぐり場でハテ人きよりる雨ぐく
おちいやーくがんくさぐぐ。ろぐり初よのやくこぐりの。

ぐく必きんくれゆへ。おまへくさのつくこくとのちぐらのぐと考て
そくくく。茶おくくーやくこれでものぐさろぐ。ろくく張イヤ
ようるくくファようりくがおいくぐつくこんぐぶーくろんくくれも
ようりくてあるようる。おまいぐくさの番ぐんくくとり船よ。
つくくくぐろのこりて。今ハ張ハおくさの八けんやよ。ろくー
きぐくくがうろくくおまいぐくとぐ。張ぐ福てゆよぐいを
ぐくくんぐめよありくぐ。いめへまーい張いまくよぐよまくる
りんぐかよへ狐きくよへりくくくぐ。包い

の用ん
こゝろ

[illegible]

[illegible]

依り出て後の車うまこと あとへ

まろう まろう て まろう 何車

それより依りの手ちを物うと憂慮しいうるはまさし

かうとうるが。憂いはとてーの物ゆゑありて物毎よ出ぞ

うけうとてーうちうちより。新のくるのかく白く。あとの物

の布ゆよ。憂びろうどのたんろうまで。おーろいぐさく

つけうる女。たー皇出て活けうぶ神とうろへ「かーる。

たろうみされ。ちよくあそびんうるんぶよ女く

トうきれぬ女「おまいさん。ぞふぎいる「こう憂いるト

びろうこう女「ヲくまうん。ちちやいるいやいるのこうより

ひで

表でもこうこうんのぞうたるうちアグ皇「ヲ」こハト

あろうまるしてうちへまうる「リアてが。あーーできいくまこぞぞあぞる

まこくでぞのおかゆ女のこうの告白さハ

石屋の
ぶつぶつ
浦のさんへ。あでる。焼物の古細工を商ふ商れば
やきもの 牛の細工は 安くも人も
よごれ くくして人くれてきれ
くくて夜のもふいろうるる
稲荷山 松のふぐりはかきろへ
ふぐ〜のさぐり夜のかりくる
くふいちりの社をふ〜おぐくつ〜ナントくくくで

一ッふく。やろうぎやア紙へ浦よりろのくトよりぎくてくけ
ちやこせる
夜〜ヨヤあまざけがあるのだあきん一ッたいくんな
ハイ〜ゆくてあぎよりいなコウ浦ぎさん。そのだあ
さんが。おめよりんがあるくアくてアレくちだくうえて。
おくりを同つ紙とくくアいへだあきんでふぐ。
大やくくんを。まちまくまりておくれんくいなトいつて紙
浦くのあをアくくくきくくく

てちやうん見いをゝりやごぶして、ワアイ〳〵こりつへおゝい
だあさん。ゆがかるゝしい見しやゝ山あいぐひゝうのむきとを
うゝちやうこがをのむきとふアノおうゝぶくとゝそりゝく
ハアおいうふゆくとうゝ。それどやアおめのむきともゝ男
であつゝろうふ。おゝいをゝゝそのごうまんどへ乃
ものいひうゝ。おまいのやうふ。あゝ〳〵あゝいろちやがあつて。
色がくらあて。をるハ極〳〵年〳〵ゆゝで。月のいろいふ
まだぐ。をまゝゝじやゝ見いをゝ。それどやアゝ。ろちが新の

見るいふだろうがよゝ。ゆくのゝ見るいふだろうもきがつゝ多く
いつ。ひいろも極をせんものと。それだろうおやちやん
見いの。アノ。汗中ぢのたびぎんゝ。ふまぐでが。あるいふも
ふるものいきゝ人の新の。ぢ。ろゝがきんぐろ。を。殺く
ををゝくんをゝ。ろんふ見をれと見いをトちやうんやろふあ
ぎゝいぐをやうゝ。五をのんでゝぐうぎをうきいゝ殺ぐゝうをもをう
まゝゝぐやあろ。見ゝやうふ。ちゝて。ワイ。滅をそのゝ人
おゝゝゝいをゝ。ゝんぐをと。滅だろうゝゝぢゝも。

あんまりやアおめへあたまをそこにてぬるがそれもはるへ
おちやせんう孫だまにまやはるさるこふり。三つちいや
さういたるあくしよぶれとひとつよそめ中へおくしと
ヨいなまだ三ヨ〜コリヤちやきけるいことをいふこいつもふ
のあ枝だ一ちやアつのんでまつぺいめへまいいふ
だあさんいうぶ川イこの又ツくぶんせ中ちだるを
おまけぶのアイおせへペツくトとちちゆ
ふうとふ ちやうぶとまぜて あたるも

まつ里こんぶるうだが あはざけ
かくてあくうへはるまゆくせてぶうゆくはぶる。
ぶんぶくこやとちくちあつて洗米ちふ解しく。
人のふうぶくも自然ちと温飯ふして。考もうは性兵
たるやぶたる女のよそほひようつ始てれたれ
うちちやくも夫佛まくよいうて一ヨくぶうもへる
おまぶアレ山門のうくく佛さるねがめぶひとる一ヨ
これがらのち佛ぶへあるうぶさまいこようへぶう

てらすものぞ。そもそもこの石とうやあらいく

大佛の侍者ちらと雲よ入しとてや

さらぬハ ちまるる ものゝ 天上

かくよろこべて山門のうちへ入やうてはまふのぶらるる

道中膝栗毛六編 上編終

10